

## この世はどんなところなのか(ルカ 4:31-44)

みなが成功したいという願いを持って成功を目指してもがいています。しかし、自分が思った通りに成功を収めたからといって、それが成功と言えるものなのでしょうか。クリスチャンの私たちは、もことの成功、まことの成功の人生はどんなものなのか、それをまず正しく理解して本当に成功ある人生を歩いていきたいなとそう願います。そのためには一生懸命、頑張っって何かを手に入れて収める前に、いま私たちが生きるこの世はどんなところなのか、それを正しく知るところからスタートします。この世界がどのようなところなのか分かっていないまま、いくら頑張っってすごいものを手に入れたとしても、それは成功とは言えません。しかし、この世界が、この世がどのようなところなのか分かって、この世界のために絶対必要な人として残りの生涯を歩いて行くとしたら、その人は社会的地位がどこなのかと関係なく成功者であり、成功ある人生を歩いていくようになります。今日の聖書の箇所を通して、そういう意味でこの世界は私たちがいま生きている、生かされているこの世はどんなところなのかということを正しく教えられたいと思います。

今日の聖書の箇所を見ますと、イエス様が会堂で教えられたときに、悪霊に取り憑かれた人が大騒ぎをしました。その時にその悪霊を叱って、その人から出ていけと命じられることで、その人が癒されるということが紹介されています。その後、ペテロの姑がひどい熱を出していたので、その熱を叱りつけると熱が下がり、立ち上がって彼らをもてなしたということも紹介されています。その後、あらゆる病気を持っている人を抱えて、人々がイエス様の元に集まってきて、イエス様は彼らの上に手を置いて彼らを癒された。不思議な病、どうしても治らない病などを抱えて苦しみ悩んでいる人々が、イエス様のところに来て癒される場面が紹介されて、その病気は単なる病気ではありません。その時に多くの悪霊がイエス様のことをいろいろ言い叫びながら出て行くことで病気が治ったということが今日の聖書に書いてあります。もちろん悪霊が追い出されて、その個人が癒されたということは大切です。病気の人がイエス・キリストの名によって癒されて元気になったということも大切なことです。しかし、最後の場面を見ますと、そのことで多くの人々がイエス様を自分のところに引き止めようとしていたのですが、イエス様は「わたしはほかの町々にも行って、神の福音、イエス・キリストの神の国の福音を宣べ伝えないといけない。その福音の内容は、イエス様ご自身がキリストであるというお知らせなのです。そのことのために悪霊を追い出して、不思議な病気を癒したりということをやさしていました。悪霊を追い出して病気を治すことが最終的な目的ではありません。イエス様ご自身がキリストなんだ。そのキリストを信じることでどうにもならない、誰も教えてくれない、人間の根本的な霊的な問題を解決して、そこから解放されていのちに預かるようになる、この神の国の福音がメインなのです。それで今日の聖書の箇所を通して、悪霊に取り憑かれていますものが癒された。単純にそういう話ではなくて、この世界はどんなところなのかということ象徴的に表している場面です。この聖書を通して、そのことを私たちは正しく教えられて、しっかりと心に刻みたいと思います。

### 1. 神様を離れたこの世はサタンが王として支配しているサタンの国である。

まず第一に、今日の聖書を通して教えられることは、神様を離れてしまったこの世界は、サタンが王になって支配しているサタンの国、サタンの王国に間違いないという証明のようなものです。

それが聖書には少しも迷わずにあらゆるところで言及しています。

#### 1) エペソ 2:2、Ⅱコリント 4:4、ヨハネ 12:31、エペソ 6:12、黙示録 12:9

エペソ 2:2 を見ますと、「かつては、それらの罪の中にあつてこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者、すなわち、不従順の子らの中に今も働いている霊に従つて」と書いてあります。皆さんの目には見えませんが、大学の教授も政治家も学者も芸能人も見ることができないでしょうけれども、空中を支配している、空中の権威を持つ支配者というものが世界を動かしていると、そのように聖書は明確に宣言しています。Ⅱコリント 4:4 を見ても、「彼らの場合は、この世の神が、信じない者たちの思いを暗くし」。

世の神と言われている者がいるわけです。この世界がこういうものによって動かされているということを知らずに、どうして成功などがあり得るのでしょうか。自分なりに成功を取めたからと言って、それが成功なのでしょう。先週も申し上げましたように、不幸が何か分かっていないと、いつもこんがらがってしまいます。不幸な人が金持ちになっているのです。不幸な人が善良な市民として動いているわけです。不幸な人が総理大臣になっているわけです。理解できませんでしょうか。私たちにそのような目がないと、キリストが崇められないので、目に見えない暗闇の力、悪霊の力が私たちからなかなか離れないのです。だから、いつも疑問ばかりのモヤモヤの人生をクリスチャンなのにそういう人生を歩くしかありません。この世界、私たちがいま生かされている世界は、私たちの目に映っているようなものではありません。ヨハネ 12 : 31 にもそう書いてあります。「今、この世に対するさばきが行われ、今、この世を支配する者が追い出されます」。この世を支配する者がいると聖書は迷わずに宣言しています。エペソ 6 : 12 「私たちの格闘は血肉に対するものではなく、支配、力、この暗闇の世界の支配者たち」。暗闇の世界を支配している者がいると聖書は明言しています。黙 12 : 9 にも「こうして、その大きな竜、すなわち、古い蛇、悪魔とかサタンとか呼ばれる者、全世界を惑わす者が地に投げ落とされた」。あの古い蛇、全世界を惑わす悪魔サタンというものがいることを聖書は明言しています。なので、いま私たちが生きるこの世界は、目に見えない悪魔サタン、世界を惑わす空中の経緯を持つそのサタンが、王になって支配しているサタンの国であるということを知ってこそ成功者になれます。

## 2) 政治、法律、教育、制度、経済活動、文化

もちろんこの世界は、私たちが見ている通りに政治活動があり、政治によっていろいろ動かされていることは間違いありません。また、法律を定めて、法律によってさばいたりするところがこの世界、この世です。また、進歩、改善のために教育を施して、教育によって人々を整えていく活動が行われているところがこの世界です。そして世界を維持するために福祉制度を始め、さまざまな制度を設けて維持していくところがこの世であります。そして何よりマネー、経済によって動かされて、経済活動がなされているところがこの世界に間違いありません。そして、さまざまな文化があり、文化活動が行われているところがこの世界なのです。しかし、それは事実ではありますが、それだけを見てははこの世において成功者としての道は期待できません。そういうことがあるにもかかわらず、それがこの世界の実体ではなくて、その裏でそのすべてを牛耳っている空中の権威を持つ、主権、力、暗闇の世界を支配している者がいるということを知らなければ勝利は期待できません。そのようなことがこの世であり世界だと、私たちはつついそのように思って、そのように慣れているかもしれません。

## 3) サタンの罠、サタンの棒、滅びの運命、終着駅

しかし、サタンはその世界に罠を仕掛けて、そのすべてが神に敵対する方向に行くように仕向けているものなのです。神様から離れた人間に、神を無視して神を否定しながら自分中心になるような罠を仕掛けて、霊的な世界を全く知ることができないように、目に見える肉が中心になるように、永遠の世界などは知る由もない、この世界がすべてだと思って、この世界にすべての価値を置くように、この世中心の罠を仕掛けているのです。自分中心、肉が中心、この世が中心というものは、結局何を意味するのか、何が目的なのかというと、それが中心になれば必ず神を拒否するようになります。それが悪魔の罠というものなのです。政治、法律、教育、制度も、経済も文化も芸術もすべてその罠に引っかかっているのです。そして、神を拒否することをより深いところまで引っ張っていくために棒を作ります。それで棒の中に閉じ込めてしまうのです。それがこの世界というところなのです。皆さんがお金を稼ぐために一生懸命汗をかいて、またあの人と競争しながらあくせくしているその世界が、そこではなくてこういうところだということを知らなければなりません。宗教を作り出して偶像崇拜をさせてシャーマンに頼るように、また、さまざまなイデオロギーなどを作って、その棒に閉じ込めることで神を拒否することが加速して深いところまで入って抜け出すことができないように仕向けているのです。それがこの世界です。表に映ることばかり見て、世界がどうのこうのというのは、もう最初から成功ある人生とは遠いものになってしまいます。なので、結果的にいくら頑張っても滅びの運命から抜け出すことができません。それでたましいも心も精神も肉体も病んでしまい、病気だらけの人生になり、人間関係、家庭のトラブル、自然世界、国家でさえ破壊され崩壊して行くようになってしまいます。それが滅びの運命なのです。しかもそれが自分が死んだ後、子孫たちに霊的な遺産としてそのまま受け継がれていくようになります。それがこの世界というところ

るなのです。そして、その最終的な終着駅がどこなのかと言いますと、言うまでもありません。人間には一度死ぬことと、死後にはさばきを受けることが定まっています、その結果、地獄に引き落とされることとなります。これが滅びの運命です。そういう運命を抱えて生きているところがこの世界なのです。なのに誰一人としてこの世がこのようなところだということに気づいていないし、知っている人がいません。大学で博士の学位をとっても宗教にのめり込んでいても、このことについては気づくことができません。だから、端的に申し上げると、いくら頑張ってもがいて成功を目指して頑張ったとしても、成功は最初から無理なのです。残念なのは、クリスチャンでもこのことに全く耳を貸さずに成功を目指しているのです。その目指している成功が手に入ったとしましょう。それが成功なのでしょう。だから、ぜひレムナント教会の皆さんは、社会的にどうなるかも大切でしょうけれども、それ以前に私の社会的な地位が経済的な程度がどうなのかと関係なく、本当の意味でこの世界が分かって、この世界に本当に必要な存在として必要な人生を歩いていく真の成功者になるべきではないでしょうか。今日の聖書はそのことを私たちに訴えているのです。

#### 4) 悪霊に取り憑かれることと不思議な病-サタンの国のロゴ

そういう意味で今日の聖書に出てくる悪霊に取り憑かれたこと、また不思議ななかなか治らない病気などは、この世界がサタンの国であるということの表れであり、この国がサタンの国ですよという看板のようなものであり、サタンの王国のロゴのようなものなのです。そのことを聖書を通してしっかりと受け止めて、なるほど、私がいま生きているこの世界は、そういうところなのか。だからなんだ。このように頷くような祝福が皆さんにあることを祈りたいと思います。

だからこそ神様は、世界がこういうところが変わってしまったので、神様は最初からキリストを約束されました。もしそうでなければ別のことがあったでしょう。でもキリストの他には希望のない世界であることを神様はご存知なので、この世界を愛して、人々を愛していらっしゃるから、神は実にひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者がひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを得るために。そのままであれば自分なりに成功を収めようがなんであろうが滅びるところなのです。だから神様は、複雑なややこしいいろんなことをおっしゃるわけではなくて、一つだけ、女の子孫が生まれて、蛇の頭を踏み砕くよと。キリストを送るよと。でも教会に通っていながらも、なぜキリストにインパクトがそれほどないのでしょか。今申し上げましたこの世界が、この世がどういうところなのか聞いたことがないのか、あるいは聞いても認めないのかだからです。そうすると信仰生活は実は成り立ちません。言葉を変えますと、そうするとキリストを認めないことになってしまうので、実際的にはキリストがないところには暗闇の力が活発に動くようになります。そういう関係性なので。だからクリスチャンでありながらももやもやが終わらないし。クリスチャンでありながらも確信がなかなか持てないし、本当の意味での喜びと希望等がなかなか持てないし、ずっとこの世界のもの、地上のものに振り回される人生を送るようになってしまいます。

## 2. イエス様はサタンの国を砕く神の国の主、キリストである。

今日の聖書が私たちに教えているのは、この世界がそのようなものであると同時に、イエス様はそのサタンの国を砕く神の国の王、神の国の主であるキリストに間違いないということを宣言しているわけです。

このことが分かって告白できるものは成功者です。たとえいま死の影の谷を歩くようなつらい状況があるにしても心配しないように。負けないように。ダビデのように主は私の牧場の羊飼いであり、私には乏しいことはありません。刑務所の中でも天にある霊的すべての祝福をいただいている私は幸せ。私は幸いなものなんだ。私は成功者なんだと告白し宣言して大丈夫です。また、そうしなければなりません。これは戦いなのです。サタンは神を離れていた私たちに、サタンの考えを小さい時からずっと注入していたのです。病気があれば不幸なんだよ。お母さん、お父さんが変な人だったら問題なんだよと思うように。それが問題でしょうか。それが不幸なのでしょう。神様を離れて悪魔の奴隷になったことが問題なのです。それが不幸なのです。だからそれが問題ではありません。それが問題だと思っている限り、キリストが飛んで消えてなくなるわけです。キリストにあってすべての問題は終わりました。なぜ本当の問題は神を離れて、悪魔と罪の奴隷になったことなので、そこが解決されることで問題は終わりなのです。まだまだ病

気がありますが、それは問題ではないのです。最初から。だからキリストによってすべて終わったという宣言ができないと、言葉で宣言して、明日何かあればまた問題と思うでしょう。その瞬間、キリストは消えてしまうのです。だから伝道の門が開かれないのです。暗闇が砕けないのです。皆さんがどういう問題を抱えていても、本当の問題が何かを認めればそれは問題ではないし終わりました。私だから。答えを探せばいいのです。それが霊的な戦いです。イエスはキリスト。すべては終わった。イエス様はサタンの国を砕く神の国の主キリストです。

#### 1) この世の絶対的(希望)-神の国(マタイ 12:28)

だから、この世、世界がどういうところなのか正しく分かったならば、この世の絶対必要は政治でも教育でもなく神の国なのです。皆さんひとりひとりにも皆さんの家庭にも必要なのは、神の国なのです。なにになぜ神の国ではなくてお金が必要で、愛情が必要でと飢え渴いて求めているのでしょうか。本当の問題を認めていないのです。子どもに変な習慣があるのでしょうか。それが問題でしょうか。だから問題に囚われるのです。それが問題ではありません。神を離れていることが問題なのです。だからその子どもにキリストが必要なのです。その習慣を直すことが正解ではなくて、キリスト Only です。キリストに集中しないと暗闇の力が砕かれないのです。神の国は何でしょうか。マタイ 12:28 に書いてあります。

「しかし、わたしが神の御霊によって悪霊どもを追い出しているのなら、もう神の国はあなたがたのところに来ているのです」。キリスト・イエスの御名によってイエスが伝えられることで聖霊が臨まれまして、悪霊が追い出されて、暗闇の力が砕かれて神の国がそこに臨まれる、これが神の国なのです。この世界に必要なのは、この神の国が臨まれることなのです。この世の絶対希望は神の国なのです。前にも申し上げましたように、

#### 2) 社会的必要と絶対的(希望)-神の国

そういう意味でクリスチャンの私たちは、社会的必要と絶対必要をよく分けて考えなければなりません。先ほども申し上げましたように、この世界を維持するために政治、教育、芸術、科学、福祉、人間の愛情等々は必要なものに間違いありません。しかし、それは社会的な必要であって、そういったものがサタンの国を砕いて、そこに本当の希望をもたらす。そういう正解なのかと言いますと、それは 1mm も役に立たないし関係ありません。絶対的(希望)-神の国、キリスト、神の国なのです。教育は世界の希望ではありません。政治も芸術もアニメーションもこの世界の希望ではありません。アニメーションでは常に訴えているのですが、世界を取り乱すことばかりなテーマです。昨日も少しニュースで見ましたが、よくもあのようなことを作るのだなと思いました。人が急に刃物で刺されて死んで、別のものに生まれ変わる転生がテーマなのです。子どもたちがそういうのを見ながら育っているのです。何か変な物に転生になって、結局はそれでも死ぬ前よりこっちのほうがずっといいよという感じなのです。この世界に絶対的(希望)-神の国であり、神の国の主であるキリストであるということ覚えていただきたいと思います。

#### 3) キリストであるイエス様だけに希望が

そして、そのキリストであるイエス様だけに希望があります。今日の聖書はそれを明確に証明している場面です。イエス様はキリストなんだ。この絶対必要、キリストなんだ。

#### 4) その御名が宣べ伝えられることだけに希望が

そして、だからこそこの世界に希望になることは、このキリストの御名が宣べ伝えられることだけに希望があるわけです。

#### 5) このことを教会(信者)に-マルコ 16:17-18、使徒 3:6、8:5-8、12:8-11、16:18

そして感謝のことにその役割を先に信じました教会、信者の私たちに委ねてくださいました。だから教会は他の何かの団体組織とは全然違います。その価値が分かっていないといけません。神様は私たちに、教会に、この世界の希望を委ねられました。もちろん神様がなさいます。キリストはすべてなさいました。それを実行していくところに私たちを召されて用いていらっしゃるということを感じて感謝と感激をしなければなりません。そうでなければいつまでたっても何を食べるか飲むか何を着るか、競争ばかりしながら憎しみ、恨みつらみなどで心に傷を抱えて、それで人生終わるところだったのに、そんなみじめな私たちをキ

リストの血潮によってきよめられ、古いものは過ぎ去り、新しく生まれるようにして、環境がどうであれ、その人の条件がどうであれ関係なく、イエスのいのちが宿るようにして、この世界に暗闇の世界、サタンの王国のこの世界に、キリストの光を伝えてサタンの国が砕かれ神の国が臨まれる、その役割を委ねていらっしゃるのです。それを教会と言います。それでこのように言われるわけです。マルコ 16：17-18 「信じる人々には次のようなしるしが伴います。すなわち、わたしの名によって悪霊を追い出し」、「病人に手を置けば癒やされます」。今日の聖書から見られるように、イエス様がなさったことがそのままイエスの御名によって私たちに委ねられています。これを権威と言います。なぜでしょうか。私たちの他に希望はないわけです。皆さんが何のために勉強して結婚して、また就職をして、健康を維持するためにトレーニングなどをしているのでしょうか。他の人と同じ理由であってはいけません。それは自分を下げてみるようなことなのです。私たちはこのような目的によって召されていま建てられている者なのです。イエスの名によって悪霊を追い出す。だれにできるのでしょうか。皆さんが今、勉強を教えてもらっているその教授にはできません。皆さんが投票して、皆さんによって選ばれたこの町のためにという偉い国会議員ではできないのです。それを教会、クリスチャンと言います。それがみごとに証明されます。使徒 3：6 「すると、ペテロは言った。「金銀は私にはない。しかし、私にあるものをあげよう。ナザレのイエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい」。それで生まれながら歩けなかった人が立ち上がって歩けるようになりました。なぜならイエスはキリストですから。これがクリスチャンです。これが教会です。この自負を持って、この役割を常に肝に銘じて、常にメインテーマにして現場に出向くようにしましょう。勉強する時にも人と会う時にも。使徒 8：5-8 「ピリポはサマリアの町に下って行き、人々にキリストを宣べ伝えた。群衆はピリポの話聞き、彼が行っていたしるしを見て、彼が語ることに、そろって関心を抱くようになった。汚れた霊につかれた多くの人たちから、その霊が大声で叫びながら出て行き、中風の人や足の不自由な人が数多く癒やされたからである。その町には、大きな喜びがあった」。これが証拠なのです。使徒 12：11 「そのとき、ペテロは我に返って言った。「今、本当のことが分かった。主が御使いを遣わして、ヘロデの手から、またユダヤの民のすべてのもくろみから、私を救い出してくださったのだ」。ペテロは刑務所にいた時に、看守も気づかない天使の働きによって、時間空間を超越する天使の働きによって、そこから出ることができるようになりました。なぜでしょうか。神の国をこのサタンの国にもたらし出すことのためなのです。使徒 16：18 「何日もこんなことをするので、困り果てたパウロは、振り向いてその霊に、「イエス・キリストの名によっておまえに命じる。この女から出て行け」と言った。すると、ただちに霊は出て行った」。この数多くの証拠、これが聖書にあるだけのものではなくて、いま同じキリストであるイエス様を信じている私たちに許されている特権なのです。

今日の聖書はイエス様がサタンの国を砕く神の国の王キリストであるということを明らかにして、そのキリストであるイエス様を信じている私たちがこの世界の主役なんだ。この世界を生かすために、神の国をもたらしするために、私たちを神様が建てたというメッセージなのです。なので、これを確認して信者はキリストによる神の国を建てるために召されたものなんだということを心から感謝しましょう。そして、それこそが信者の生きる最高の価値ある理由であるということを肝に銘じましょう。

それから、そのようにして自分のすべてをこの最高の価値ある理由を軸にして導かれる人こそ成功ある人生、成功者と言えるわけです。例えば、勉強もこれからの進路も結婚も事業もこの最高の理由、神の国を建てるための理由、サタンの国を砕いて悪霊を追い出して、いのちの祝福をもたらし、そのことを軸にして導かれるわけです。難しいことではないでしょう。自分が自分の欲をあきらめないから難しいだけであって、導かれることは簡単です。これが軸になって、このためにどうすればいいのか。何が有利なのか。問いかけつつ、祈りつつ、導かれることです。それが成功ある人です。そこに成功の人生が待っているわけです。つまり、クリスチャンにとって富と成功は目標ではありません。信者はサタンの国が砕かれて神の国が臨まれる。これが願いです。そしてこの一つ以外の願いはありません。この願いを一つに絞って、それから何を通してそれができるのでしょうか。どこでそれをやればいいのかと問いかけ続けることを祈りと言います。神様は必ず答えられるし、メッセージが生かされることになるし、その時に裏面契約ということをつかむようになります。それが成功者です。神の国が臨まれることのために、どこで何をしながら..その裏面契約が分かった人を成功者と言います。問いかけてみてください。ハヨンの場

合は TCK 多民族があなたのミッションじゃないのかな。ゆりかは青少年ではないかな。琴美は児童ではないかな。でも、なぜなかなかそこにクリスチャンなのにとどり着くことができないかというと、最初に戻ります。今、自分が生かされているこの世、その就職の現場がどういうところなのかが聖書が教える通りに自分のものになってないのです。そうすると別の方向に行ってしまうのです。別のものがテーマになるわけですから。そうすればするほど損なのです。時間がかかるだけです。信者はサタンの国が砕かれて神の国が臨まれる、この願い一つのために生きる者です。でも、この一つの願いでいいのでしょうか。それに加えて、すべては加えて与えられると約束されています。なんと余裕ある格好良い人生でしょうか。他の人があくせくこだわって神経を使うところを、何も気にしないで神の国だけ気にしているのに加えて与えられる。それが成功者です。その余裕がなければどうやって人を助けることができるでしょうか。

そして、自分のすべてがこの願いに用いられることを祈る人こそ成功者です。クリスチャンはこの世界を避けて隠れるものではありません。だからといって、この世界と妥協して染まっていくものでもありません。クリスチャンはこの世界に神の国が臨まれる使命を持って真っ正面から向き合う勝利者です。皆さんがその主人公であることを改めて覚えて、感謝とともに自分整理をしましょう。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。地獄に行くしかなかった、何が問題なのかも知らずにさまよっていた私たちを愛して、一方的な恵みによって、キリストの血潮によってすべての問題を終わらせて、私たちの内側に聖霊が宿り、イエスのいのちがあり新しく生まれるように祝福を与えられた主の御名をほめたたえます。だからこそ私たちを通してサタンの国になっているこの世界、そこに囚われている人々を助ける伝道者の祝福を委ねていらっしゃることを覚えて感謝申し上げます。自分の願いが何なのかを整理しながら、神の国一本に絞って真の成功ある人生、成功者として残る生涯を歩いて行けるように、私が行くところに暗闇の勢力、サタンの国が砕かれて、いのちの働きが行われることを夢見ながら祈りつつ進んでいくようにひとりひとりを祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。